



地域連合

UNION-COMMUNITY かわさき

発行 日本労働組合総連合会神奈川県連合会川崎地域連合
川崎市川崎区富士見 2-5-2 TEL044 (211) 0055 FAX044 (233) 6942

No.92
2019.1.1

一機関誌一
発行責任者 藤吉誠一郎
編集責任者 舘 克則



新年のごあいさつ

連合神奈川会長



柏木 教一

多くの働
く者の声
と力を結
集し、リス
クヘッジ

あけましておめでとうござい
ます。▼旧年中の地域連合運動で
の積極的な展開に、心より感謝申
し上げます。▼時代の変革期にお
ける地域労働運動の果たす役割
は、益々大きくなっていきます。▼
役割の増大に影響する周辺環境
は、4月から「労働法制」も時間
外の上限規制などが導入され、A
IやIoTなどの導入スピード
も数級的に拡大してきます。▼
私たちの労働運動は、組合員にと

どもならず、
多くの働
く者の声
と力を結
集し、リス
クヘッジ
することも重要です。そのため
は、「春季生活改善闘争」を中心と
した自らの働く環境・労働条件の改
善に取り組みむことはもとより、社会
システム全般への問題意識を共有
し、時代の流れの先行きを予測して
行動すること、そして今できること
を懸命にやり続けることだと考えま
す。▼2019年は、12年に一度の統一地
方選挙と参議院議員選挙が重なる
年です。働く仲間と気持ちを共有
し、生活者の視座で取り組める首
長・議員をしっかりと当選させなけ
ればなりません。▼本年も、連合神
奈川に対する絶大なご支援・ご協力
をお願いするとともに、皆様の益々
のご健勝とご活躍を祈念いたしま
す。

川崎地域連合議長



藤吉 誠一郎

議院議員
の二つの
選挙が行
われます。
組織内候
補はもと

新年あけましておめでとうご
ざいます。昨年は皆様のお力添え
で、諸々の運動・活動で多くの成
果を収めることができました。と
りわけJR南武線の混雑緩和と
安全対策に対する署名活動では、
多くの皆様のお力を戴き、血筆を
集めることが出来ました。改めて
心から感謝と御礼を申し上げます。
▼さて、今年は4月に県知事・県
議会議員・市議員、7月には参

議院議員
の二つの
選挙が行
われます。
組織内候
補はもと
より、私たちが推薦・支持する全員
の当選に向け、ご理解・お力添えを
賜りますようお願いいたします。
▼私たちは、組織の中だけの
活動ではなく、規模・雇用形態・男
女間の賃金格差、平和、人権、子育
て、教育、環境等等、こうした課
題解決に向け、広く一般社会からも
共感を得られる運動にも取組む責
務があります。川崎で働く全ての労
働者と、将来仲間になる若者・子供
たちの未来のために、役員一同全力
で取り組んでまいります。▼本年も
川崎地域連合へのご支援・お力添え
をお願いすると共に、構成組織の皆
様とご家族の皆様にとつて実り多
き一年でありますよう心から祈念
し、新年の挨拶とさせていただきます。
本年もよろしくお願いいたします。

川崎市市長



福田 紀彦

新しい何
かを創造
する「市
民創発」
の考え方

あけましておめでとうござい
ます。組合員や御家族の皆様にと
りまして、今年一年が喜びに
満ちた良い年になりますようお
祈りいたします。▼本年は、「平
成」が幕を閉じ、新たな時代が始
まる年です。より一層前向きな
気持ちでさまざまなことに挑戦
してまいります。▼また、引き続き
待機児童の解消をめざすことも
に、地域で子どもを育む仕組み
づくりを進めます。▼人々が出
会い、思いを共有・共感する

こと、
新しい何
かを創造
する「市
民創発」
の考え方
のもと、多様な主体による地域づく
りの「新たなしくみ」の構築を進め
ます。▼東京2020オリンピック
・パラリンピックが翌年に迫るな
か、かわさきパラムーブメントの取
組などにより、機運を高めていきま
す。▼大規模な災害に備え、地域防
災力の強化を図るとともに、地域包
括ケアシステムの構築や待機児童
対策など、「安心のふるさとづくり」
を進めます。▼また、「力強い産業
都市づくり」に向けて、「臨海部ピ
ジョン」の取組として、新産業創出
拠点の形成や水素エネルギーの利
用推進などを進めます。▼今後も、
「最幸のまち かわさき」をめざし
て皆様とともに取り組んでまいり
ますので、引き続き、御協力をお願
いたします。

川崎労福協会長



小原 洋

原点であ
る「助け
合い・支
え合い」
の重要性
を改めて

新年明けましておめでとうご
ざいます。▼皆さまにおかれま
しては、つつがなく新しい年を
お迎えのこととお慶び申し上げ
ます。▼昨年は災害の多い1年
でもあり、被災者の方々の生活
再建の遅れや不安、あらゆる世
代での貧困の拡がりによる暮ら
しへの不安の高まりなど、共助
の支援が重要課題として表面化
しました。まさに我々の活動の

原点であ
る「助け
合い・支
え合い」
の重要性
を改めて
実感した1年でありました。
▼さて2019年の活動については、「助
け合い・支え合い」の精神を改めて
念頭に置き、「川崎地域連合」の労
働運動と「川崎労福協」の福祉活動
を両輪として、「勤労者、市民が真
のゆとり・豊かさを実感できる社
会」の実現を目指して活動を展開し
ていきます。▼最後になりますが、
川崎で働く仲間と協力し、多くの会
員・市民の皆さまに労福協の活動に
参加・協力いただけるよう活動を進
めていくことをお誓いし、会員の皆
さまをはじめ、ご家族の皆さまのご
健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、新
年のご挨拶とさせていただきます。

2019年度 政策制度要求・提言

川崎市より回答を受領



福田市長

12月13日(木)川崎市役所第3庁舎にて、福田市長から2019年度に向けた標記要求に対する回答書を受領しました。▼2019年度に向けた重点要求として、①JR南部線の輸送力増強と駅の安全対策、②横須賀線「武蔵小杉駅」の混雑緩和と安全対策について、③地域包括ケアシステムの確立、④すべての世代が安心して暮らすための方策について、⑤生活困窮者支援について、⑥フードバンク活動の普及と食品ロス削減の推進について、⑦ヘイトスピーチに対する取り組み、⑧洪水・浸水に対する取り組みについての8項目。また、対市要求として「産業・労働・雇用」「都市整備」「健康・福祉・医療」「平和・人権」「行政」「道路交通」「生活環境」「環境・エネルギー」「教育」の分野から43項目の要求・提言を申し入れていました。▼回答会議は冒頭、福田市長より「毎年、働く立場



福田市長(右)より回答書を受け取る藤吉議長(左)

地域に根差した内容について提言をいただいている。課題を一緒に解決していくパートナーとして引き続き、ご指導をお願いしたい」と挨拶されました。その後、市の回答に対し、委員から多くの質問・意見が出され、活発な意見交換の場となりました。▼川崎地域連合 藤吉議長からは「川崎市から丁寧な回答をいただき感謝したい。全てのことですぐにできるとは思っていないが優先順位をつけて着実に進めてほしい。回答については持ち帰り内容を精査させてほしい」と述べ、一層の協力を確認しました。



藤吉議長



2019年度に向けた政策制度要求・提言 川崎市からのおもな回答について (一部抜粋要約版)



JR南武線の輸送力増強と駅の安全対策について

回答：鉄道の混雑緩和に向け、引き続きJR東日本と協議したいと考えています。また、平成30年7月9日～8月10日にかけてオフピーク通勤を実施し、市職員が一日約934人参加しました。効果として、昨年と比べ最混雑区間で混雑率が約1.2ポイント低減しました。

すべての世代が安心して暮らすための方策について

回答：保育士等が働きやすい職場・生活環境づくりは、国の処遇改善等加算に加え、市独自の基準として、加配保育士への処遇改善等加算を実施しております。介護人材の確保と定着は、本市として人材の呼び込み、就労支援、定着支援、キャリアアップ支援を行っております。

ヘイトスピーチに対する取り組みについて

回答：インターネット上の対応につきましても、インターネットリサーチを継続するとともに、国とも連携しつつ、その抑止に向けて、取組を進めてまいります。また、人権全般を見据えた条例につきましては、平成31年度末までの制定を目指して取組を進めております。

地域包括ケアシステムの推進について

回答：平成30年度から「川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会」の主旨に賛同いただいた企業・団体の皆様にも御参画いただき、更なる連携の可能性を模索し、より多様な主体が気付きを得る場として、団体数を22団体から100団体規模に拡大して開催しております。

フードバンク活動の普及と食品ロス削減の推進について

回答：福祉事務所、だいきジョブセンター及びホームレス巡回相談における緊急対応用食品や、生活保護受給世帯の子どもの学習支援事業における軽食として「フードバンクかながわ」から提供を受けた食品を生活困窮者へ配付するなど、有効に活用しています。

洪水・浸水に対する取り組みについて

回答：適切なタイミングで避難勧告等の発令を行うため、24時間体制で警報等の気象情報の収集及び分析を行い、災害の予兆等の発見に努めています。また、今年度全戸配布した各種ハザードマップ等の中で、市民の皆様の適切な避難行動につながるよう、周知しています。



連合ロゴマーク

毎年3月6日は
「36(サブロク)の目」に
正式認定されました。

「連合がすすめるAction! 36とは」▼会社が残業をさせるためには労働基準法第36条で定められている約束事「36(サブロク)協定」の締結が不可欠です。でも、そのことを知っている人は5割半ば。▼また、「36協定を締結している」勤め先は、なんと4割半ばとの回答でした。(連合2017年インターネット調査)▼この調査から、36協定を結ばずに残業させている企業が多いという実態が浮き彫りになりました。▼長時間労働を是正して、すべての職場で「より良い働き方」を実現していくためには、何はともあれ「36協定の適切な締結」が絶対に必要です。▼そんな思いを込めて連合は「Action! 36」をスタートさせました。

情報

3月6日は何の日?
Action! 36